

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、利根川 正議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

利根川議員。〔1番 利根川 正君登壇〕

○1番（利根川 正君）

みらい創造クラブ、利根川 正です。

本日、12月6日は、平成8年、蒲原沢での土石流災害が発生し、14名の貴い命が犠牲となりました。早朝より慰霊祭が行われました。この場を借りまして、深く哀悼の意を表します。

では、1回目の質問をお願いいたします。

1、令和6年度の稲作の現状と安定供給について。

日本の食料自給率は、カロリーベースで38%と低く、依然輸入に頼っている現状です。その中で自給率の高い米は、この夏品薄となり、いろいろな条件が重なり、令和の米騒動が起きました。現在米の価格は高値で推移しています。

消費者にとっては、物価がさらに上がり大変ですが、農家は、正常の価格になり、今後の継続と後継者問題、また、地方の所得向上を考えると、この価格を維持できるようにしなければなりません。

現在米騒動から3か月たっても、値下がりする要因がなく、卸業者、JAもこの先の不安から、少しでも確保しようと動いています。また、飲食店からは、1年間の数量確保を契約する動きもあり、糸魚川市内の生産者も販売する米がないほどの状態です。これらを踏まえ、以下の点について伺います。

- (1) 糸魚川市は今年の米の概算金（仮払金）60キロ当たり1万9,100円をどのように考えているか伺います。
- (2) 米の不足が来年度も考えられますが、糸魚川市はJA、米業者の在庫量などを把握しているか伺います。
- (3) 糸魚川市の令和7年度の主食用米の作付面積の傾向と、米農家の現状をどのように捉えているか伺います。
- (4) 農地の維持、景観等を守るべく、中山間地域等直接支払交付金制度、多面的機能支払制度が令和7年度に更新の時期になりますが、参加団体の変化等があるか伺います。
- (5) 米価の値上げに伴い、今後若い農業従事者を増やすためには、どのような考えがあるか伺います。
- (6) JAでは今年度Jークレジット制度を活用して、中干し期間を7日間延長すると30%ほどのメタンガスを削減する栽培方法を導入しましたが、どのくらいの効果があったか伺います。
- (7) JA上越地区では、労働時間やコスト削減にV溝直播を実施しているが、糸魚川市でもこの方法を進めていく考えはあるか伺います。

(8) 糸魚川市もふるさと納税で、米を主力に2030年までに20億円達成できないか伺います。

2、JA新潟厚生連糸魚川総合病院の医療体制の確保について。

JA組合員へのお知らせで、地域医療提供体制の維持と事業運営のため、経営状況と経営改革についての文章が配られました。その中で令和5年度の決算は過去最大の35億円の損失金計上となり、この状況が継続した場合には、令和6年度は60億円からの損失金の計上が見込まれるとありました。

経営改革を進めなければ令和7年度には資金が枯渇し、病院等事業が困難になるおそれがあるとしています。その原因として、人口の減少、新型コロナによる受診行動の変化、診療報酬の改定への対応のための在院日数短縮による患者数の減少、また、診療報酬が平成28年以降引き下げられていて、影響が大きく出ています。

今回の経営改革の方針の下に改革対策をスタートさせましたが、あまりにも遅いと思います。糸魚川市にもさらなる財政支援の要請に來られました。どのような対応が可能なのか、以下伺います。

- (1) 中長期的対策として不採算医療、非常勤診療の在り方を修正し、協議するとありますが、どのような協議が行われたか伺います。
- (2) 病床数、機能の見直しを行うとありますが、上越地域医療構想調整会議では糸魚川市の必要病床数の推計を示されました。2023年度は、急性期165の病床数のうち、回復期患者が入院している実態が報告され、2025年度の必要急性期病床数は34床と示されていて、回復期は157床で、今後どのように機能を調整し、話し合いされるのか伺います。
- (3) 医師、看護師の人材不足の中、管理職手当の削減は、必要と考えますが、JA新潟厚生連職員の給与支給も下がっている現状では、さらなる看護師、事務員の不足が生じると考えます。糸魚川市の考えを伺います。
- (4) 県は12月中に県内で11病院を運営するJA新潟厚生連の経営危機に県が財政支援をすすめる方向で検討に入りましたが、地域医療連携推進協議会の会長、米田市長はどのように捉えているか伺います。
- (5) 糸魚川市もJA新潟厚生連糸魚川総合病院の経営改善計画を分析して、改善を進めていくべきと思いますが、見解を伺います。

3、防災減災の実施に向けた取組について。

今年1月の能登半島地震後、9月に石川県能登豪雨による再び大きな被害が発生しました。大雨特別警報が発令されていた中、裏山が崩れ、土石流が家の中に流れ込んできて、また、27の河川が氾濫し、家は泥に覆われ、地震の被害よりひどい状況になりました。

このような災害が糸魚川市でも起きる可能性があり、対策を打つべきと思います。

以下、糸魚川市の考えを伺います。

- (1) 土石流では、倒木により橋がせき止められ、水の行き場がなくなり、自宅に押し寄せて被害が大きくなっています。本流支流域の河川の木々の伐採を早く進めるべきと思いますが、市の考えを伺います。
- (2) 土石流は、平成8年12月6日の蒲原沢での発生、また来海沢でも起きております。近年、

砂防ダムの老朽化や土砂がたまっていて防災の機能を果たしていない現状です。糸魚川市は、どのように考えているか伺います。

(3) 政府は、自治体の防災備蓄品に対しての導入補助に乗り出す考えで、特に簡易トイレ、水の保管は重要と考えますが、市の備蓄品に関する考えを伺います。

(4) 高齢者の独り暮らしが増えている中、1980年以前の旧耐震化住宅は耐震化する必要があり、どのように進めていくか伺います。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

利根川議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、JAが、米の需要や販売価格に応じて適正に設定したものと捉えております。

2点目につきましては、卸業者などの需要が市内生産量を上回る状況であるため、在庫はないものと認識しております。

3点目につきましては、高齢化及び担い手の不足により、作付面積は減少傾向と捉えております。

4点目につきましては、現在、参加団体が農用地の選定を行っており、より多くの農家の皆様から参加いただけるよう努めてまいります。

5点目につきましては、所得の向上とともに、圃場整備やスマート農業の導入により、農作業の効率化を図り、新規就農者の確保に努めてまいります。

6点目につきましては、成果等については現在集計中ではありますが、JAからは、生育に対する大きな影響はなく、取組者の来年度以降の継続意欲も高いとお聞きいたしております。

7点目につきましては、作業の省力化及び平準化が図られる栽培方法であることから、上越市内での実績等を参考に、関係機関と検討してまいります。

8点目につきましては、当市の返礼品はお米が中心で、年々、寄附額が増えてきている状況であり、今後も、多くの皆様からご寄附いただけるよう、生産者との調整や効果的な情報発信に取り組んでまいります。

2番目の1点目につきましては、今後の人口減少や医療需要の変化を見据え、当市に必要な医療体制について協議を始める予定であります。

2点目につきましては、上越医療圏全体での医療再編の中で、各病院の機能や規模が決められていくものと考えております。

3点目につきましては、看護師などの医療従事者は、医療を支える要であり、安定した医療体制の維持に支障が生じることのないよう、必要な支援を行ってまいります。

4点目につきましては、県内において平等な医療体制を維持することが、県の責務であると捉えております。

5点目につきましては、単に経費削減を目的とする経営改善計画ではなく、将来にわたって持続可能な地域医療を提供できることを確認しながら、病院と連携して取り組んでまいります。

3番目の1点目につきましては、各河川管理者と連携を図りながら、伐採処理に努めてまいります。

2点目につきましては、砂防堰堤の土砂や流木は、必要に応じて、国や県が除去作業を実施しております。施設の老朽化対策は重要な課題と認識しており、引き続き、関係機関と砂防施設の新規設置などの対策を要望してまいります。

3点目につきましては、市においては一定量の備蓄を進めるほか、家庭や自治会での備蓄の確保について周知しております。

4点目につきましては、耐震化の必要性や重要性、補助制度などについて、今後も継続して周知・普及に努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

では、2回目の質問をお願いします。

（1）の糸魚川市の米の概算金の件なのですが、稲作の現状と安定供給について、この夏の米騒動の原因は、2023年の夏の猛暑による品質の低下による主食用米の流通が減少で、また、需要では、外国観光客の増加で消費量が増え、それに加え、麺やパンの値上がりがあり、主食としての米の消費量が伸びたこと、また、南海トラフ地震の臨時情報と迷走した台風で、消費者側も不安から買いだめするようになり、さらにちょうど新米に入れ替わる端境期で在庫がなくなり、米の売場から商品が全く何もなくなりました。

今回の米不足に対して、政府は備蓄米を放出しませんでした。放出の条件は、10年に一度の不作か、不作が2年続いた場合に対処できる水準としています。今回は当てはまらず、しかし、例外で過去に東日本大震災で4万トンの供給、また、2016年の熊本地震にも放出しております。今現在、学校給食や子ども食堂にも提供しております。現在、5年分で100万トンの在庫量で毎年20万トンずつ買入れし、5年たったものから売却し、飼料用米として流通している現状です。

ここで、（1）の概算金の件ですが、昨年度、JA仮渡金が、昨年度末で1万4,200円、この9月稲刈りが始まる前には1万7,600円、今回、最終的に1万9,100円の概算金、値上げで、4,900円の値上げでした。この価格は、生産者からすれば励みになる金額ですし、この価格を来年度も維持していかなくていけないと思います。

しかし、消費者から見れば、さらに物価高を招いてしまい、難しいところがありますが、この金額、課長はどのように思われるか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

生産資材等の価格が高騰する中、生産コストに適切に対応した価格設定というのは、農業経営を継続していく上では大切でありますので、一定程度の価格の上昇は必要であるというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

農家としてみれば、飼料、それからまた除草剤、燃料代、最近になって機械の高値が推移しております。生産者は、この価格がやっと利益の出る価格というふうに捉えておりますので、この価格は、続くように期待したいというふうに思っています。

次に、（2）今回、米不足に関して情報発信が少なかったと思います。来年度の米のJA、米業者の在庫量は、現在どのようになっているか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

糸魚川産のお米につきましては、今年度だけではないんですが、今までもそうでしたが、生産量を上回る需要があることから、販売店、販売先が見つからないような在庫についてはないというふうに認識をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

糸魚川のお米が、売れるということだと思います。新潟県では、南魚沼産のコシヒカリが一番、今もかなり売れております。それに追いつくような形での生産のほう、実際、食べて、おいしいという声が、かなり受けておりますので、もっと拡販して、販売できるようお願いしたいというふうに思います。

それから、この11月30日の糸魚川産のブランド生産者大会において、来年の6月末の民間在庫量は162万トンで、平均ですと180から200万トンの在庫量ということです。もう一年このままいきますと、不足するという数字が出ております。米を不足させないよう調整は難しいんですが、どのように不足が生じた場合、対応していくのか。また、今年と違う対応ができるのかをちょっと伺いたいんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

先ほどもお答えさせていただいたように、糸魚川産米につきましては、生産量を上回る需要ということで推移しておりますが、今、主食用米以外の飼料用米等も生産している田んぼもございますので、そうしたものを主食用米に切り替える等、関係機関と調整しながら、生産量の増加に向けて努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

銘柄を変えて、飼料用米から主食用米に切り替えるという方法もありますし、また、今、皆さん見て分かるとおりに耕作放棄地が目立ってきております。そこを活用して、強く耕作に促すようお願いしたいというふうに思っております。よろしくお願ひします。

次に、3番、11月に県の農業再生協議会で、来年度の米の生産目標が出ました。県の目標は、56万2,400トンと公表、24年度の54万6,000トンを上回り、1万6,400トン多い目標になります。これに伴い、作付面積も多くなりますが、糸魚川市では、今年度は作付面積を抑えて栽培しましたが、来年度、多くできるのか伺いたいというふうに思っておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

先ほどお話しさせていただきましたように、飼料用米から主食用米の転換等で、ある程度、面積拡大は可能かと考えております。生産量の数量の増加というのは、農業所得の向上につながりますことから、関係機関と連携いたしまして、県が示します目標値に近づけるよう努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ここで気をつけたいのが、主食用米を増やして、作り過ぎによる価格低下という心配もありますが、その辺を調整してもらいまして、ぜひとも消費者に届くようお願いしたいというふうに思います。

次に、(4)の中山間地域直接支払等多面的機能支払制度ですが、4月に再度始まります。中山間地では、高齢化により条件の悪い水田を諦める方が多くいて、このことは、景観の維持、また、

荒廃の防止、鳥獣害の面からも大きな問題です。地域全体として対策を考える必要があると思いますが、考えをお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

交付金を有効に活用して、地域のお住まいの農業者以外の方の参画によります地域ぐるみ、集落ぐるみの活動を推進するよう、地域の皆様と一緒に考えてまいりたいというふうに考えております。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

次、（5）農業従事者を増やすためということですが、最近、地域おこし協力隊の方が2名、昨年度より活躍しております。これ、さらにIターン、Uターン、Jターンなどが受けられる、増員を進めるべきと思いますが、農業ばかりちょっと増やすということはちょっと難しいというふうに思いますが、この協力隊の募集は、地域から要望して、地域が計画・立案して、市のほうにお願いすれば募集できるものなのか、農業に限らず、どのような方法を取れば、協力隊が応援してもらえるのか、分かればお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

今ほど農業に限らずというお話でしたので、私のほうからお答えさせていただきますが、地域おこし協力隊の募集に際しましては、今、例えばそういった農業に従事していただくという場合もありますし、いろんなケースがあるものだと思います。そういった場合に、地域ですとか団体さんですとか、そういった受入れをしていただく体制、それから、協力隊の特色としては、3年間の任期というのがあって、3年後、またそこに定住していただけるかどうかということが鍵になりますので、任期終了後、また、そこに住んでいただけるといったところへの配慮といったところも大切かと思っております。

したがいまして、地区などから協力隊等についてご要望があった際には、そういったところを視点にご説明をさせていただきながら、地域と一緒に検討させていただくといった形になるかと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

あと、もう一点、2拠点地域移住ですね。その移住を推進すると、都会の人をこちらに来てもらって、例えば週末、農業をしてもらって、月曜日には、また仕事に帰るというふうな、そういう拠点の生活で、農業という形に携わる、要は何ていうんですかね、少しでも触れてもらうという考えで、都会の人を呼び込むような対策ができるのではないかというふうに思っています。

最近、この二、三日の新聞報道では、東京都は3連休にして、週4日の勤務にするというふうに打ち出しているとかいうふうな情報もありますし、その連休を利用して、農林水産の体験、また、自然体験、登山体験など、体験型の2拠点移住をぜひ進めてもらいたいというふうに思います。

次に、(6)水耕栽培における中干し期間の延長で、J-クレジット制度、中干し期間をいつもより7日間延長することによって、クレジットの売上げで手数料を引き、農業者の収益になり、栽培した米は、J-クレジット米として付加価値が上がり、高く販売できます。糸魚川でも近年やっておりますが、こちらを積極的に進められないか、伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

JAでは、今年度の成果について、現在、精査しておるところです、農家の皆様から声をお聞きしながら。その結果につきまして、市といたしましても注視しておりますし、全国的な取組状況ですとか成果についても、今後、研究してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

この制度は、企業にとってもありがたい、重要な、会社運営にやる上ではなってきますので、ぜひ企業と一緒に進めてもらいたいというふうに思っております。よろしく申し上げます。

次に、8番、ふるさと納税ですね。こちらは2023年度の県全体の寄附金受入額は340億円、全国2位となり、糸魚川市は3億7,423万、これは2023年度ですが、経費を引いて実質1億8,711万円となりました。

ちなみに、今年度かなり伸びているということですが、残念なことに、既にお米の販売が、インターネットを見ますと在庫切れという形での糸魚川のホームページ、そちらに出しております。お米に代わる次なる商品をどんどん打ってきてもらいたいんですが、その辺の考えは、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お米以外の返礼品につきましては、例えばこの先も人気になります、カニですとかエビといった海産物もございます。また、日本酒といったことが考えられるかと思っております。それ以外も、今後、期待しているものとしましては、体験型のメニューといったところも今後伸びる可能性があるというふうに考えておまして、現在、例えば現地におけるツアー、糸魚川市へお越しいただいて、ツアーに参加していただくというのも商品として考えられますし、糸魚川市の食材を活用した都内でのレストランでの食事券といったところでも取組を始めているところでございます。

今ほど議員おっしゃられたインターネットサイトでの品切れ表示につきましては、サイトごとの、どうも掲載のルールがあるようでして、私見たときには、そういう品切れ表示はなかったんですけども、またちょっと確認をしながら、寄附者から選んでいけるように、また入れ替えしていただけるようなところがあれば、ぜひそうしていただくような形で進めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

私が見たのは、「さとふる」だと思うんですけど、そちらのほう糸魚川見てみたら、ほとんど品切れ、お米は品切れという形で、南魚沼のコシヒカリを見たら、全て埋まってる。まだ全然予約取れますみたいな形なんで、かなりその差がありますので、その辺は来年度、しっかり取り組んでもらいたいというふうに思ってます。

先ほど日本酒の件も出ましたが、このふるさと納税で、糸魚川産の酒米を使いまして作られている日本酒があります。このたび、伝統的酒造りがユネスコ無形文化財の登録になり、昨日、パラグアイで開かれている委員会で正式に決まりました。糸魚川市には、5大酒蔵があり、糸魚川市と酒蔵が一緒になり、販路拡大に向けて、ふるさと納税、また、今輸出がかなり伸びておりますので、そちらのほうにも取り組んでもらいたいというふうに思っております。よろしく願います。

次に、農業の一番最後にですが、この11月、各地域で農業に関する地域計画の説明会がありました。国の制度改革で、来年4月から農地の賃貸の手続が変わり、相対契約から農地中間管理機構を中に入れての手続となることや地域農業の現状と課題を上げられていて、その中で、中山間地では高齢化が進み、新たな担い手の確保が必要になり、特に負担となっていることが畦畔の草刈り、また、農業機械の更新、今使っている機械が壊れれば、もう農業をやめるという人がいる現状です。また、イノシシ、また猿の農作物被害、これは減る傾向がないんですね。こちら対策をもっと強化していかなければいけないというふうに思っています。

今後において、多面的制度、中間管理制度が利用して、農道の草刈りしないでいいように、農道のコンクリート化、また、機械の購入には、この制度を活用して、機械を買ってもらい、その機械を共同で利用して、集落単位での営農組織をつくる必要があるというふうに思っております。何より、そこで話し合い、これからどのようにしてこの農地を守っていくかということを決めていってもらいたいというふうに、その話し合いが大切というふうに思っておりますので、よろしく願います。

次に、2の糸魚川総合病院の医療体制の確保についてです。

まず、糸魚川総合病院の現状を把握するために確認なのですが、糸魚川総合病院の今までの経緯について見ていきますと、令和2年3月に介護老人保健施設「なでしこ」の廃止。令和6年4月、許可病床変更、261から199に変更に伴い、5病棟の廃止。それから、看護師の勤務形態が変わり、3交代から2交代への変更。また、最近4月では、採血室が2か所から1か所になるということになっております。それから、令和2年から5年までの新型コロナで受診行動も変わり、患者数は減少しました。その間、新型コロナ補助金交付金を受けているときにも、忙しいということもありましたが、経営改革を進めていけばというふうに考えます。また、県全体の厚生連の問題にもつながりますが、人口減少、患者数の減少が把握できたというふうに思っていますので、早く改善すべきであるというふうに思っております。この件に関して、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

経緯につきましては、今ほど利根川議員がおっしゃったとおりの流れで、ここに至っているというふうに思っております。コロナ禍で受診行動、受診控えがあつて、コロナが明けたときに、その患者さんたちが戻ってきてくれるという期待感がやっぱり医療の中ではあつたようですね、糸魚川総合病院だけではなくて。全ての医療機関において、そういうことが期待されていたんだけど、人口減少の流れと相まって、思ったほど患者さんの戻りがなくて診療収入が思ったほど入ってこなくなつたというところでの病院経営の厳しさというのが現状だというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

県の今までの動きで、県の動きで11月26日、第2回県立病院とJA厚生連病院との協議会の場が、県庁で開かれました。その中で、上越医療圏では新たな中核病院、運営主体や使用する施設の話合いに入ることを合意しましたとあります。また、その中の会合で、JA厚生連全体として10月末まで収支を9億円改善したとあります。今後、さらに個々の病院も改善をさらにお願いしたいというふうに思っております。それから今回、県は今後の医療再編、コンサルティング費用として2,000万を計上していますが、糸魚川市としても、経営改善計画の進み具合、コンサルティングの内容を一緒に見ていく必要があると思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

県が、この12月の議会で補正予算2,000万ですかね、計上されているのは、経営コンサル

タントに厚生連の経営状況の分析を委託する費用を県が面倒見ますよということでの委託費というふうにお伺いしております。その委託内容、成果をお聞きしながら、それぞれの病院、特に私ども糸魚川総合病院の今後の在り方の診断というものをお聞きする中で、必要な支援というものも、また考えてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひよろしくお願いします。

今回、県のJAから経営改革方針が打ち出されております。その中で、緊急的対策の中で支出改善対策として、1つ、経営管理委員、理事、監事報酬及び管理職手当の臨時的削減、2つ目として一般経費の削減、固定資産取得の見直し、3つ目として各契約の見直し、4つ目に要員配置の適正化など改革を進め、品質改善を図っていくというふうに出ております。あと、この糸魚川総合病院も該当するというふうに思っておりますので、ぜひ進めてもらいたいというふうに思っております。

それから、糸魚川総合病院の現状を8月に、この議会の委員会協議会の中で行い、2023年度の状況を対応等説明が受けました。その中で、医師の高齢化、看護師の不足が上げられていましたが、医師、看護師の不足が改善されているのか伺いたいというふうに思っています。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

糸魚川総合病院の医師につきましても、かなり高齢化が進んでおりまして、若い医師の方が、研修医とかはいらっしゃるんですけども、その後、糸魚川総合病院から離れてしまって、富山大学からの派遣をいただいているような状況でございます。その中で、比較的高齢になられてもお残りいただいて何とか確保している状況でございますし、看護師におきましても、若い看護師さんは、先ほど来、伊藤 麗議員のご質問にもお答えしましたが、糸魚川市外からおいでいただいて、勤務をいただいて、何年かすると、また異動希望等で糸魚川を離れてしまうというような状況が起こっておりまして、市内にいらっしゃる看護師の方から、定年を迎えてもお残りいただいて、継続勤務いただいているというのが現状でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

今後、医師、また看護師等、また事務員もそうですけど、かなり厳しい状況が続いていくと思いますので、しっかり対応のほうをお願いしたいというふうに思います。

次、ちょっと細かい点になりますが、4点ほどちょっと聞かせてもらいたいんですが、研修医の受入れ状況ですね。研修医の受入れが負担になっているんじゃないかというふうに聞いておりますが、その辺いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

病院のほうにお伺いしましたら、やはり研修医の方を受け入れるということは、それなりにその方の指導に当たるということでの、通常の勤務以上の負担というのは当然あるというふうに伺っております。例年、各年度3人から4人の研修医を受け入れておりますので、その負担というのは確かにあるものというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

研修医の受入れが、担当医が、本当に熱心に研修医を受けた以上は面倒を見てもらえるようお願いしたいというふうに思っております。

それから、次に、会計時間が長いというふうに、かなり待たされるというふうに受診者からよく聞いておりますが、会計自動精算機の導入をぜひとも入れてもらいたいというふうに聞いておるんですが、その辺、対応できるようなものなんでしょうかね、かなり高額なんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

このことにつきまして正式に伺ったことは、尋ねたことはございませんが、今、厚生連の経営状況から固定資産の購入停止だとかいろんな縛りが入っております、導入はかなり難しいのではないかとというふうに推測されます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

周り、富山の病院とか上越の病院も導入されておりますし、スムーズに診察終われば、自動精算機で帰れるという形で、待たすことなくいきますので、その辺の検討を、今後お願いしたいというふうに思います。

もう一つ、今閉鎖中の介護老人保健施設なでしこ、この後、今暗くなって、真っ暗になってるんですが、どういうふうにしていくのか。例えば違う業者に貸すとか、逆にもうそこで解体して、更

地にして地主さんに返すとか、どんなふうを考えているのか、その辺もし分かればお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

なでしこの件につきましては、現在、閉鎖してからずっと空いた状態で、あえていうとコロナのワクチン接種のときに集団接種会場でちょっとお借りをして使ったぐらいの使用しかしておりません。現在、閉鎖中でございますので、閉鎖のまま資産としては残ってるけども、そこで利益は生まない状況でございます。それで、これを賃貸借で別の方にお使いいただくということは、全国厚生連の中の縛りがあってできないというふうに伺っておりますので、まさに、悪く言うと負の資産的な状況になってしまっているということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

最後の質問なのですが、糸魚川市にとって重要な病院、もう一点、よしだ病院がありますが、この関係性について、市との関係性について、どうなっているか聞きたいんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

よしだ病院さんにつきましては、通常、私ども市とのやり取りはほとんどございませんで、いろいろ先生もご高齢になっておられますし、今後の経営については、心配をしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

よしだ病院のほうも、支援のほうを話してもらって、どういう支援があるのか一緒になって考えてもらいたいというふうに思います。

医療の最後に、糸魚川総合病院において、市民に愛される病院になってもらいたいために、どうしなければならぬのかを考えてもらいたいというふうに思います。他の病院に比べて待ち時間の長いことや、会計での時間がかかり過ぎなど改善を進めてもらいたいというふうに思っております。市内の病院も同じく厳しい状況でありますので、一緒になって考えていってもらいたいというふうに思います。よろしく申し上げます。

次に、防災の件で、（３）今回、石破首相が所信表明演説で、事前防災を進めることを言っておられます。避難所となる全国の学校体育館の空調整備を早く進めることや、能登半島地震、豪雨での教訓から、トイレカー、キッチンカー、トレーラーハウスの官民連携による登録制度の創設、また、温かい食事を提供できるよう機材・物資の分散備蓄などを上げています。防災備蓄品は、各施設に分散して置くことも必要ではないかというふうに思ってますし、また、住民は、不安視しております。防災備蓄品を使い、避難所体験を進めても役立つというふうに思っておりますが、防災備蓄品の分散を進めるべきではないかというふうに思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

備蓄品の関係につきましては、今までの一般質問でも答弁してきたとおりですし、基本的な考え方は、市長答弁のとおり、やっぱり各自、あるいは自治会だという考えになります。市の備蓄につきましては、3地域1か所ずつに集中備蓄をしておりますし、また、コロナ禍におきましては、各地区公民館に感染症対策物品を配付しております。

ただ、消耗品につきましては、5類に移行したといったようなところで更新は考えておりません。ただ、これもまた以前にお答えしたんですが、特にご高齢の方が重たい水、あるいは暖といいますが寒さをしのぐといったような備品につきましては、各地区公民館というわけにはいかないんですが、ところどころに、そういった水、それから毛布の代替になりますアルミブランケット、またちょっと小腹空いたときのちょっとした食べ物、こういったものを備蓄できないかといったところは、現在検討しているといったようなところです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

政府も進めるというふうに言っておりますので、ぜひ一緒になって進めてもらいたいというふうに思っています。よろしくお願いします。

それから、最後に、災害時は市の職員の作業軽減、また負担軽減にほかの自治体の協力が極めて必要で、日頃から訓練と経験の積み重ねで進めてもらいたいというふうに思います。被害者の各種災害関連の申請書の簡単にできる改善など、日頃から改善努力をしてもらい、短期的な課題に対して計画的に取り組むことが大切だと思います。ぜひ市のほうで進めていって、災害がいつ起こるか分かりませんので、よろしくお願ひしたいというふうに思います。

以上で、2回目の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（保坂 悟君）

以上で、利根川議員の質問が終わりました。

本日は、これにとどめ、延会といたします。